

「platformOViA」のパートナーとして OS／ツール／SIサービスなど 多くのソリューション提供に期待しています。

NECエレクトロニクスでは、ソフトウェア・プラットフォーム「platformOViA」を提供している。

いち早くplatformOViAのパートナープログラムに参加してきたウインドリバーには、

OSの提供、ツールの提供、システム・インテグレーションという、多くのソリューション提供を期待しているという。

ハードウェアよりソフトウェア開発により

多くの負荷がかかる

組込みソフトウェアは、ますます複雑化／大規模化してきており、多くの開発現場で「ソフトウェア爆発」が現実のものとなってきた。NECエレクトロニクスが提供している「platformOViA」は、こういった組込みシステムのソフトウェア爆発に対応する有効なソリューションとなるものだ。

現在、分野が異なるシステムにおいて、共通する機能が求められるようになってきた。たとえば、

- (1) ブラウザや地上デジタル
- (2) デジタルオーディオ
- (3) 著作権管理
- (4) Java

などは、まさしく携帯電話やデジタルAV、車載情報機器など、異なる分野のシステムでも共通で搭載される機能となっている。さらに、それ以外にも多くの機能が異なる分野のアプリケーションで共用されてきた。

「技術の境目が薄れてきて、同じ技術を異なる分野でも活用するようになってきています。しかし、同じ技術を活用して、誰が開発しても変わらない製品なら開発する必要はありません。クールなソフトウェアを作り出さなければダメなのですが、時間がない。つまり自分たちが価値を生み出すものに注力すべきなのです」(桑原氏)という。

すなわち、セットメーカーの競争のステージは、「独創的なソフトウェアの提案力」へと大きく変化してきているのである。

また同時に、幅広いラインアップの同時立ち上げも重視されるようになってきた。ワールドワイドの競争のなかで、多様なニーズや規格に対して同時並行的にラインアップを充実していかなければ、勝ち残ることが難しい。そういったニーズに対応していくためには、ハードウェアよりソフトウェア開発により多くの負荷がかかることになる。

ソフトウェアの構造を統一

このような組込みソフトウェア開発の現状に向けた解決策となるのが、「platformOViA」だ。

セットメーカーでは、競合製品と差異化を図るために、よりアプリケーション部分の開発に注力している。そのため、デバイスドライバやOS、各種ミドルウェアについては、半導体メーカーやミドル

ウェア・ベンダなどから提供されているものを積極的に活用するようになってきた。アプリケーションより下位レイヤのソフトウェアを作り込んでいては、負荷が大きすぎるからだ。しかし、ミドルウェアの活用ひとつとっても、ミドルウェア同士の相性といったインテグレーションの個々のベンダとの契約の手間などが発生することから、負荷がかかることも多い。

そこで、platformOViAでは、

- (1) LSIに依存するソフトウェアはNECエレクトロニクスから提供
- (2) ソフトウェアキテクチャの統一
- (3) パートナーのミドルウェアを認定

これらのことによって、セットメーカーが安心してアプリケーション開発に注力できる環境を実現している。

特に、ソフトウェアのなかでもさまざまなアプリケーションで共通に使われることが多いマルチメディア処理部分のAPIとして、OMF (OViA Media Framework) インタフェースを規定した。OMFインタフェースのAPIに従って開発したソフトウェアは、ハードウェアに依存せずに流用したり、異なるOS間でも再利用が可能になる。これによって、platformOViA上で開発されたミドルウェアの多くを携帯電話、デジタルAV、車載システムという異なるアプリケーション間でも共有・共通化することが可能になっていく(図1)。

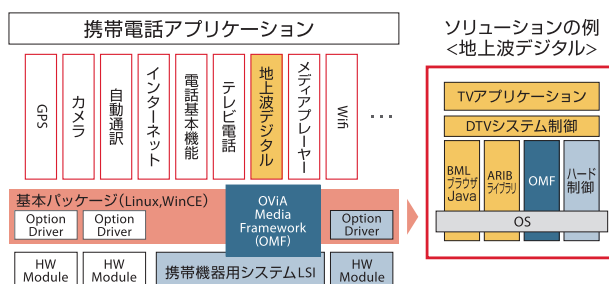
パートナープログラムによってミドルウェアや SIサービスを充実

ミドルウェアについては、パートナープログラムを用意することで、有力パートナーの優れたミドルウェアの整備を進めている。

また、パートナープログラムによって、

- (1) 有力パートナーのミドルウェアの整備

図1：platformOViAが提供するソリューション



- (2) プリインテグレートされたソリューションの整備
- (3) プラットフォームに精通したシステムインテグレータによるソフトウェア開発支援サービスの提供

など、幅広いソリューションを提供することができる。
現在、platformOVIAのパートナープログラムには、20社を超える企業が参加しており、ウインドリバーもその1社として早くからパートナープログラムに参加してきた。

また、ハードウェアについては、NECエレクトロニクスが各アプリケーション分野に向けて最適化されたSoCなどを用意する。

たとえば、

- (1) 携帯電話にはMeditryシリーズやMPシリーズ
- (2) デジタルAVにはEMMAシリーズ
- (3) 車載システムには自動車向けASSPなどがある

ウインドリバーとの協力で

platformOVIAのワールドワイド展開をより推進

platformOVIAで提供されるソリューションは、図2のように五つの商品から構成されている。

すなわち、

- (1) 基本パッケージ
- (2) ミドルウェア
- (3) 開発ツール群
- (4) システム・インテグレーションサービス
- (5) サポート・保守サービス

である。

それらのソリューションのなかでも桑原氏は、ウインドリバーに対して、

- (1) OSの提供
- (2) ツールの提供
- (3) システム・インテグレーション

という、多くのソリューション提供を期待しているという。

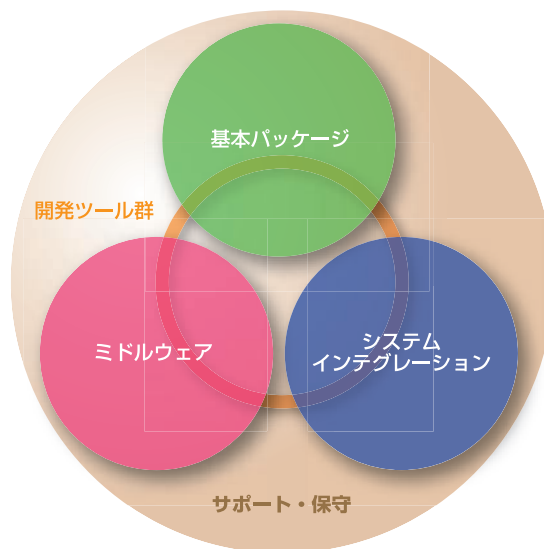
(1) OSへの期待については、Linuxをいっしょにやっていきたいという。「ウインドリバーは、組込みシステム向けに、信頼性が高く、パフォーマンスにも優れたLinuxを提供しています。Linuxへのニーズが高まるなか、ウインドリバーのLinuxには期待しています」(桑原氏)。

(2) ツールについては、Workbenchによる開発のしやすさには定評がある。さらに、充実のサポート体制もポイントになっているという。

(3) システム・インテグレーションについては、「組込みシステムに向けたノウハウが必要であり、ミドルウェアを合わせ込む技術やデバイスのノウハウも要求されます。さらに、プロジェクトマネジメントの能力も求められます。ウインドリバーは、それらの能力をすべて備えており、システム・インテグレータとして大いに期待しています」(桑原氏)。

さらに、ウインドリバーは、ワールドワイドに事業を展開しており、北米本社においては強力な受託開発部門も持っている。「platformOVIAはすでにワールドワイドに展開しつつあり、ウインドリバーと協力することでplatformOVIAのワールドワイド展開をより推進していくことも期待しています」(桑原氏)という。このようにウインドリバーのソリューションに対する期待は大きい。platformOVIAとウインドリバーのソリューションとのコラボレーションによって、セットメーカーにとって競争力あるシステムを効率的に開発できる環境が、より強化させることは間違いない。

図2：platformOVIAが提供するパッケージ内容



PARTNER PROFILE

NEC エレクトロニクス株式会社
〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部 1753
URL: <http://www.necel.co.jp/>



NEC エレクトロニクス株式会社
システムソフトウェア開発事業本部
シニアエキスパート
桑原 一悦氏 (くわはら かずよし)

WIND RIVER ウインドリバー株式会社

東京本社
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー
TEL.03-5778-6001(代表) FAX.03-5778-6002

大阪営業所
〒532-0011 大阪市淀川区西中島7-5-25 新大阪ドイビル
TEL.06-6100-5760(代表) FAX.06-6100-5761

E-mail: info-jp@windriver.com <http://www.windriver.co.jp>

登録商標: Wind River, Wind Riverロゴ, Tornado, VxWorksは、ウインドリバー株式会社の登録商標または商標です。記載されているすべての名称は、各社の登録商標、商標またはサービスマークです。

■販売代理店